

下の巻

雪の梅
女庭訓

上の巻

梅の門
梅の園
梅の政
梅の画

松
延
巻

中の巻



A536



雪の

うき

女座列

初編上の巻

梅の門警るる作

採事國政画

松延堂板

<48-8375>

吉田

雪の梅女座列

初編序

夫の世の妻選の百病の踏行く
 かく防の紅花の色ゆきし女も今田の眉去奉い
 位も最高く勢ひ猛き丈夫もそや夢の洞小夕の風透るは易き世
 慣ひ或の翠帳紅圍小枕もどく妹脊中もつる距つ吉野川況て婦女ハ男
 子も勝る苦樂の何れもさるる武部が残さ草の物語も戒めのある中
 利欲と耽り色と酒と己の才を亡きも多かれは是木のり法戒め示され
 浮世新聞粹な口調も南華大人が起稿する雪の梅座の列と等まめは白
 梅の香を名さく因の鶯齋が慕うて多に海嶼つるらも妻收孝節や乙女
 子木の教州挿入む画工の國政大兄が妙技を揮つて松延堂の主人が需め
 忘るれ初編ハ愚の三編を結んで愛顧を願ふあふん

明治十四年秋

葛飾

梅迺門鶯齋述





大内義胤 おのゝり
 光陽娘於梅 みつひかりむすめ

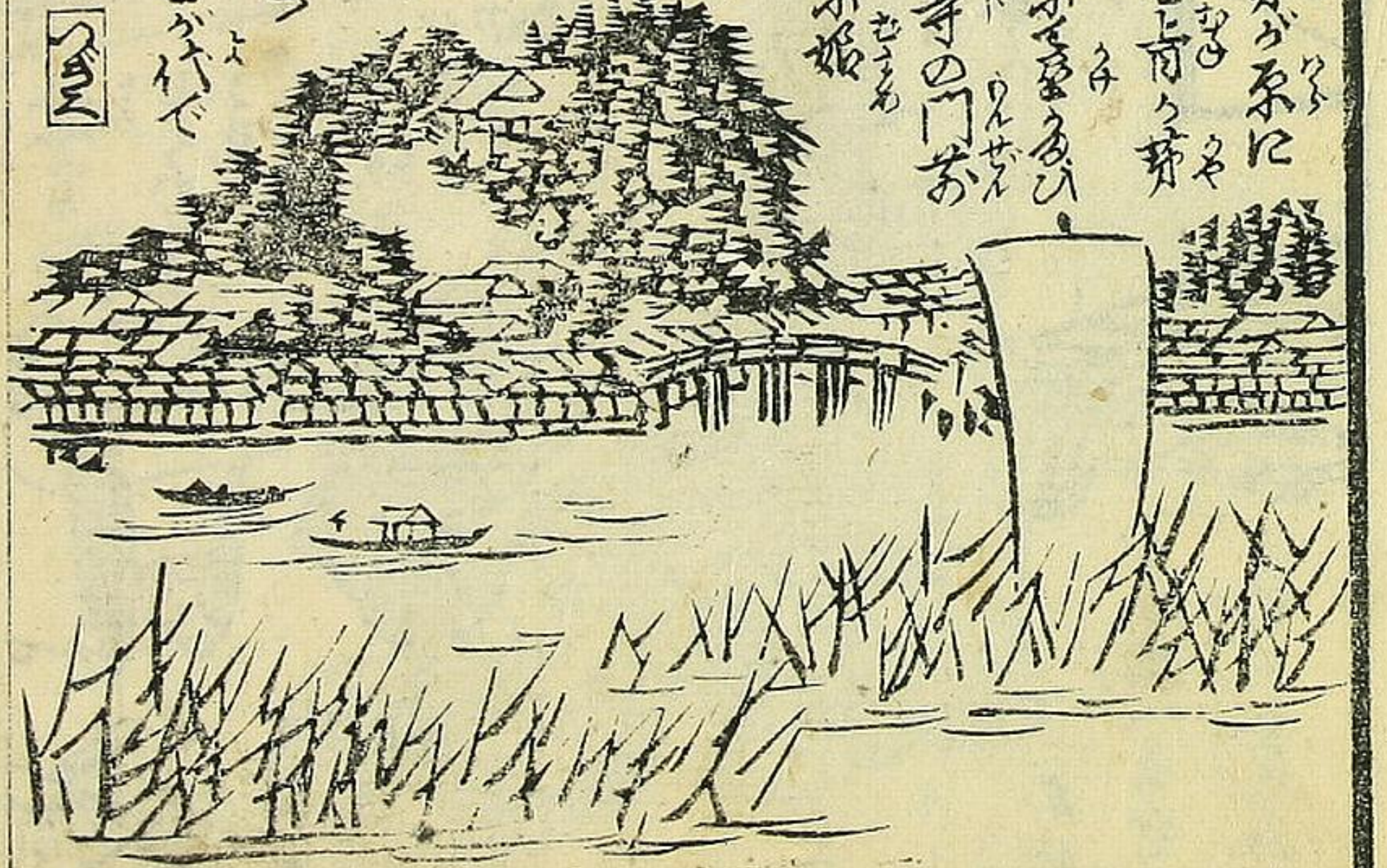


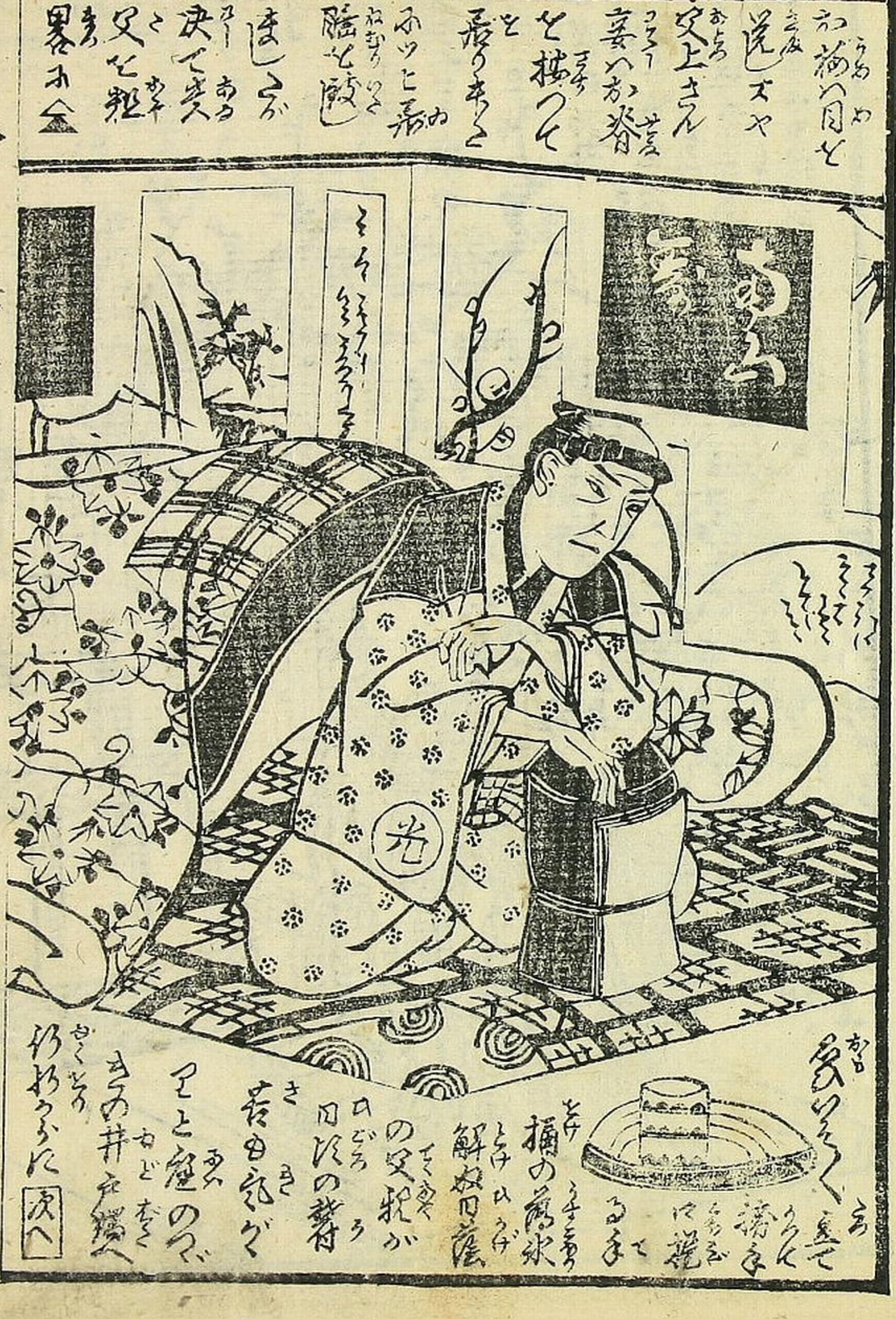
幕臣杉本光陽 まくらみすぎもとみつひかり
 松大黒娼妓滝川 まつおほくろおしやくたにかわ

大内の義僕義太郎



むつこえ梅がやを食のつたものぞろろ後芽が系に
 程をうらぬ浦草梅の市外は風雅と青う芽
 鼻の初由傾あく滝便飛瀾りの酒に後おきまひ
 るた初初辰梅向の若おきまひる縁泉寺の門お
 小昔一の後の化北飛瀾か人由まれば白屋お始
 か梅が若おと若のをくと幽うおも若す
 杉光陽が身おありうる一ツの雅儀
 人あふまと清うねと拍お昔芽の縁はて
 心悪しとまきの老梅に始しあくるる
 か梅は月夜看病小紋を巻むて父の例うら
 賦ると光陽へんをうてホウとは息つとせがいで
 あふへは後る昔芽を始かま昔芽ののつと

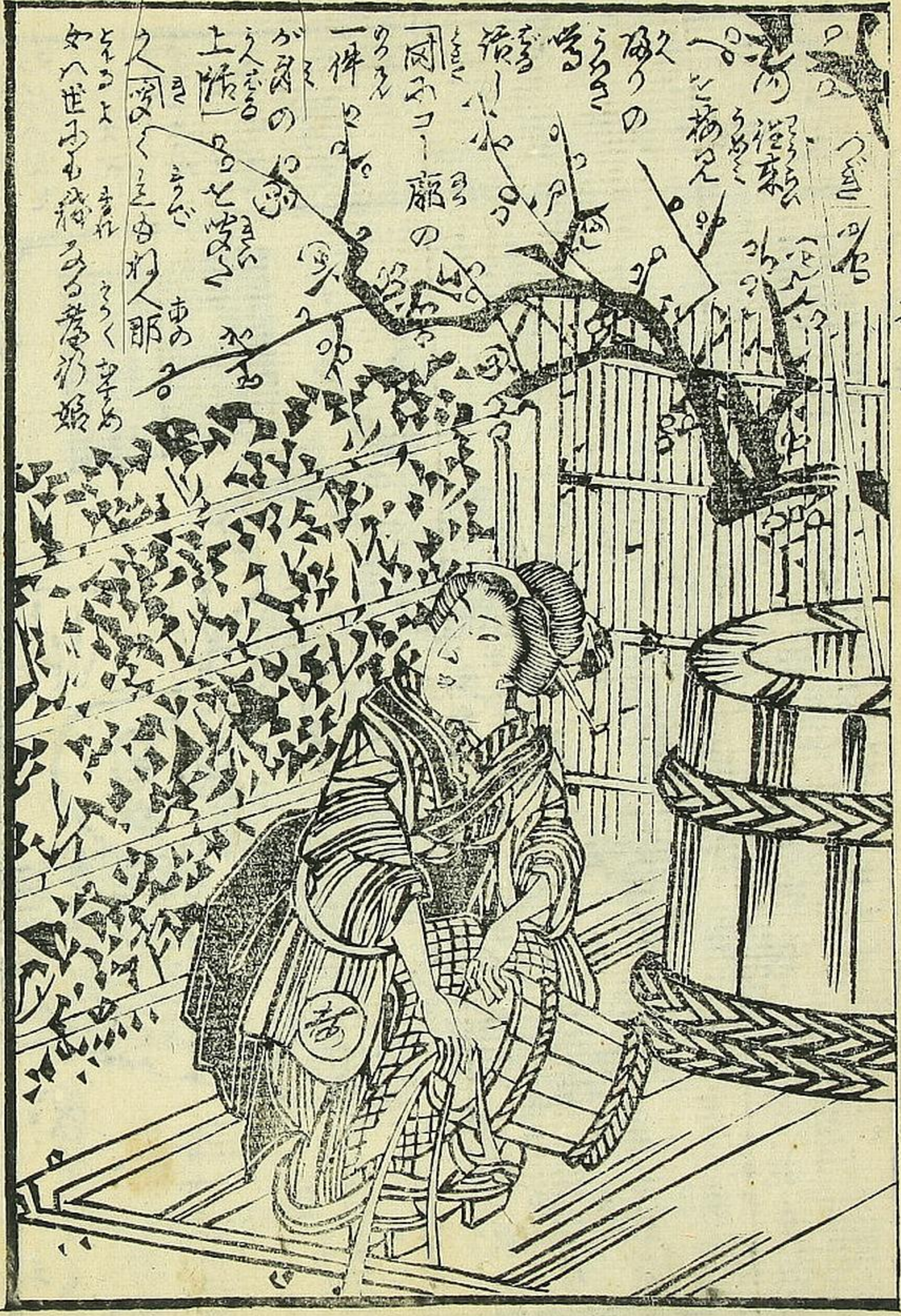


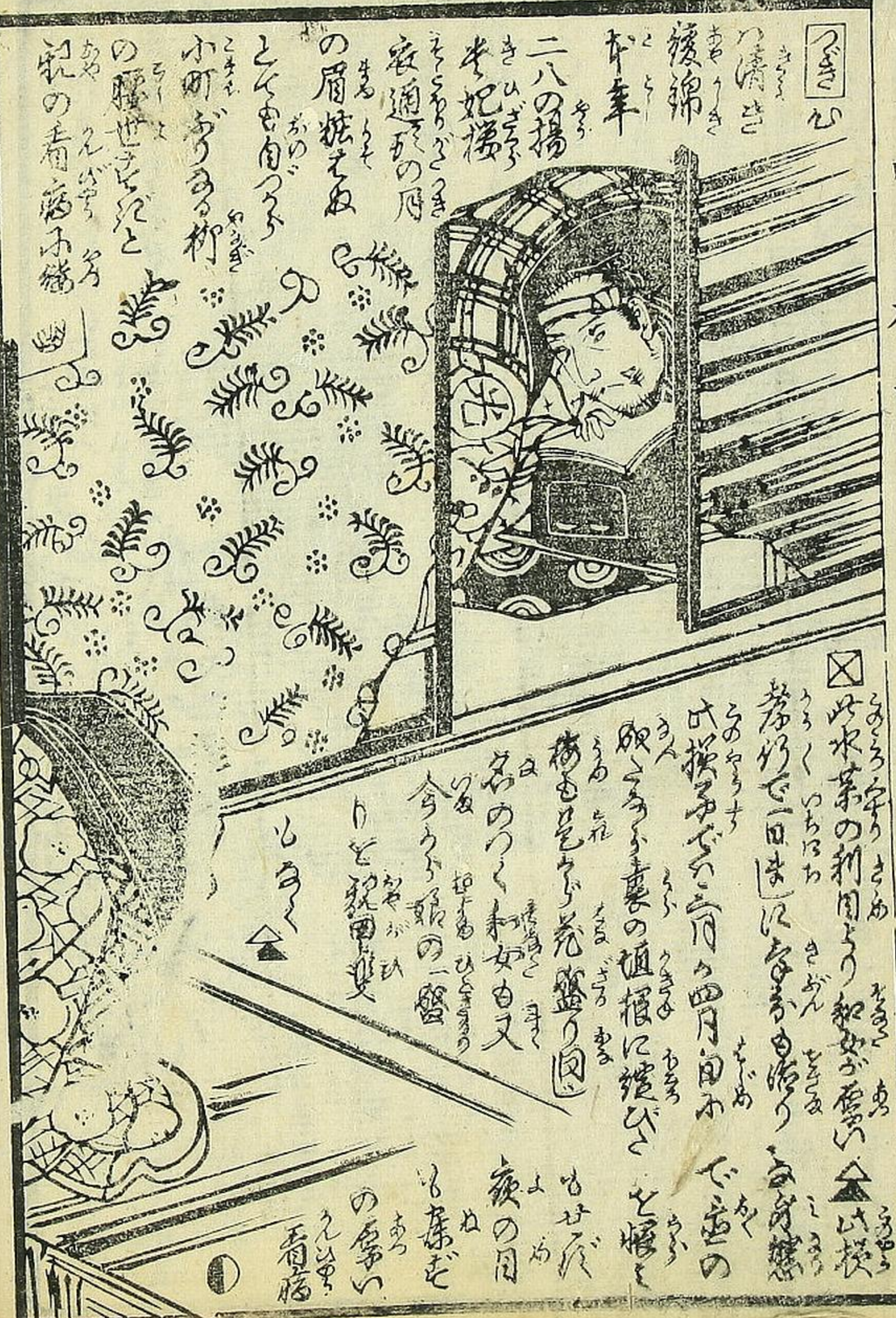


あれやと 彼れをせしめ 寝るゝの 娼妓の
 滅多し者か 人世に 云々 云々
 絶果類
 のサと酒
 の操 操のさ
 つくくと 祝のさ
 山の 山を 操
 君 君 君
 なるなる 君
 あるおアノ 勿体ない

二ヶ月の
 二月半定
 らぬ看
 病小形腫を
 肝腎を 濁と する
 才も 意も 人の 拙り
 よ 夢 夢 夢
 つ 娘 娘 娘
 の 玉の 汗の 汗の 汗の
 人も 感せぬの こそ なる
 好く お梅の 身も 纏ふ 襟襦
 の 夜の 足若く さまり 次へ

あつた
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十



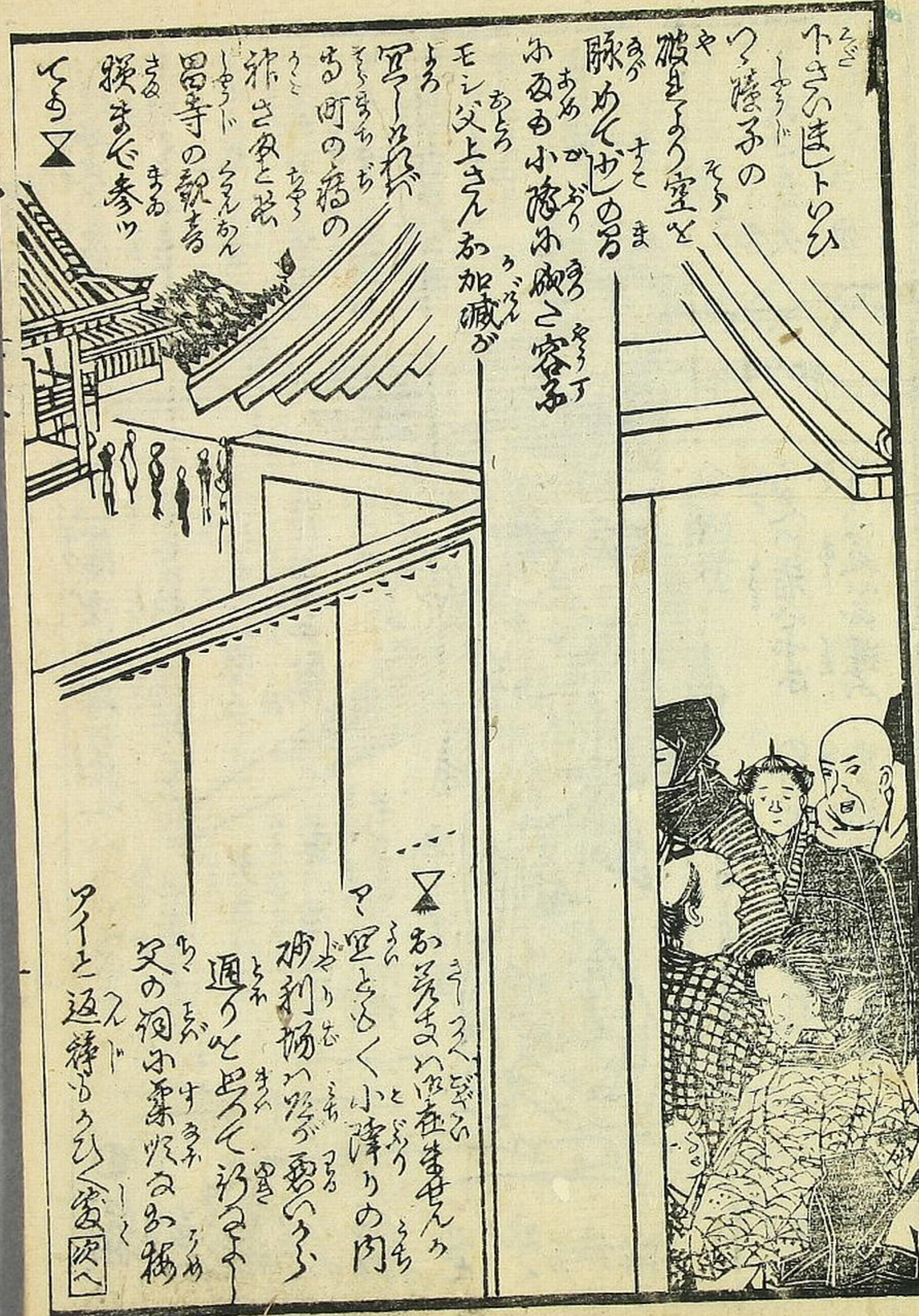


茶の籠と取捨入モト上
 さん今月かかか親の又
 籠も圓一の換おめそれ
 ますうがおむ持の何です
 湯飲取そ人笑出は父老陽ハ渡うが
 茶と湯飲一七分月つる心は任おけられ



つぎに 娘は涙を伏し
 物ねをかき
 押おけマア物
 白の生 ぬい
 世を育て受て
 是とと育つこの
 俺らけりの世看
 女ことと世が返
 せろう訓がぬ
 世那那といふ
 揮と何ぞさす

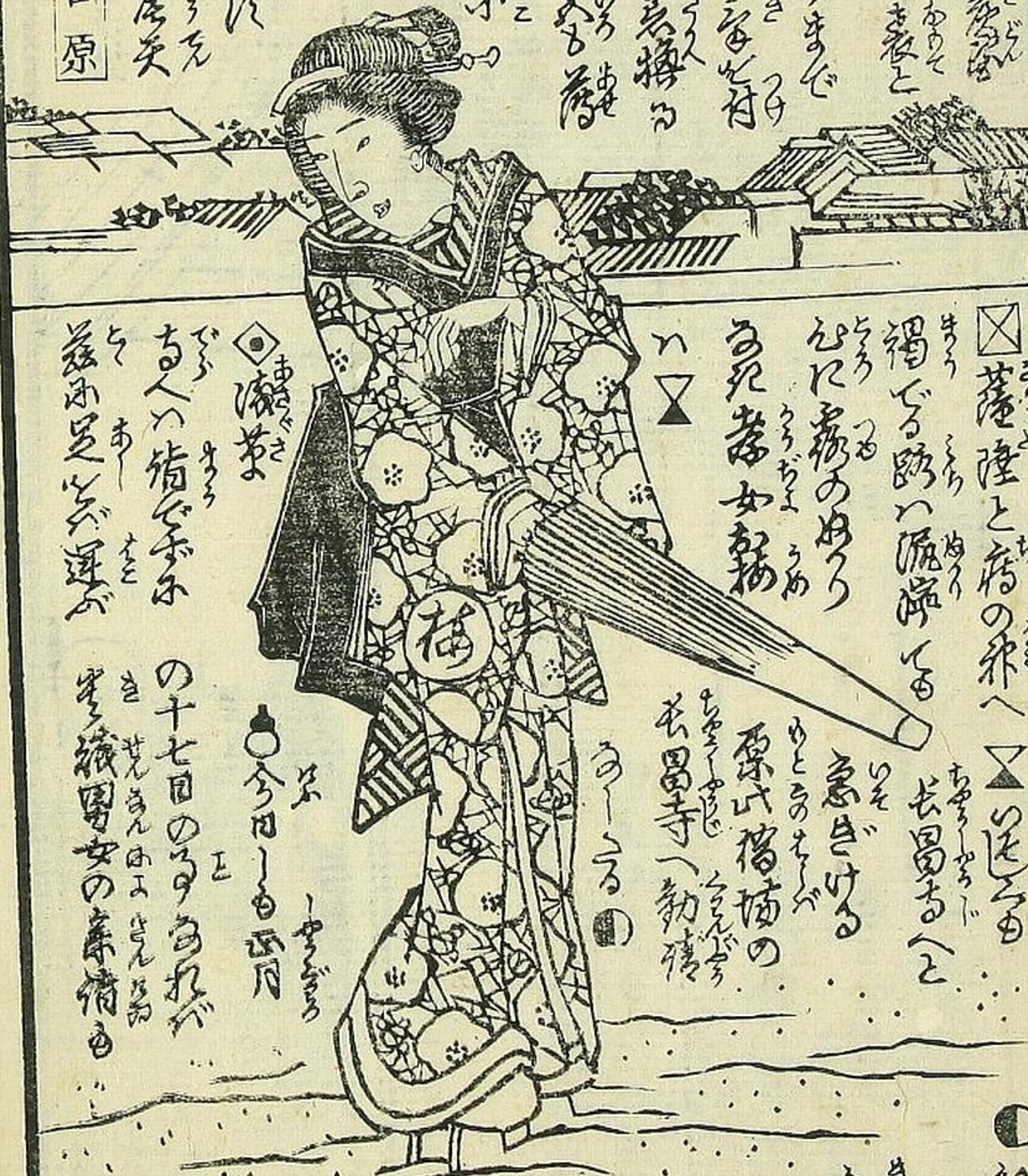
西岸梅ゆ



下さのま下
 つき子の
 波さるる室
 脈めく世の
 おる由小
 毛父上さん
 写し
 町
 津
 田
 獲
 つ

おま
 小
 通
 父
 天

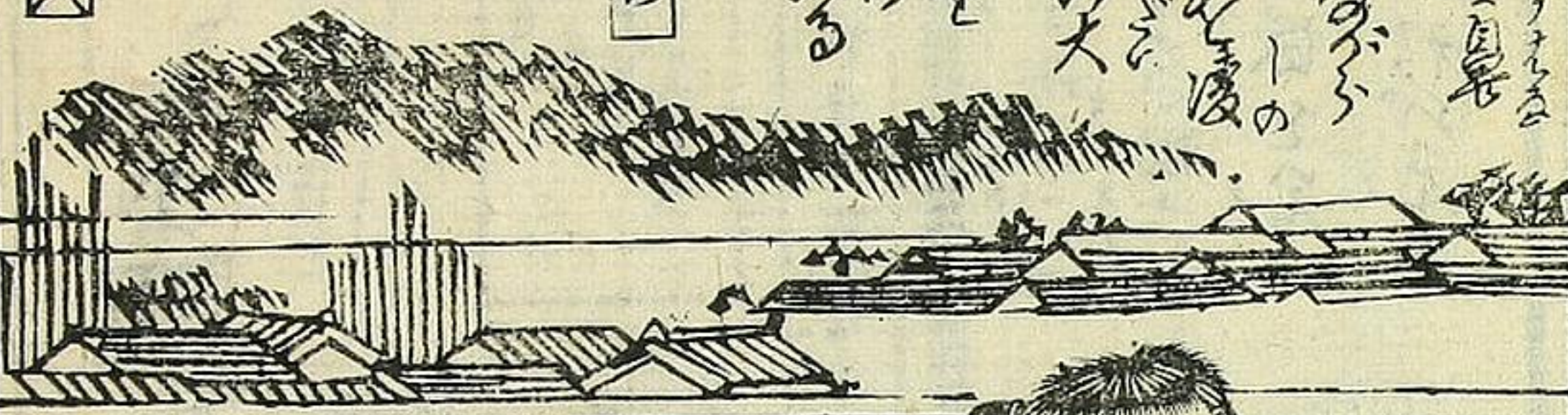
安太の妻
 とは、
 雪の梅りま
 心は、
 て、
 洗滌、
 余の帯
 も、
 吉原



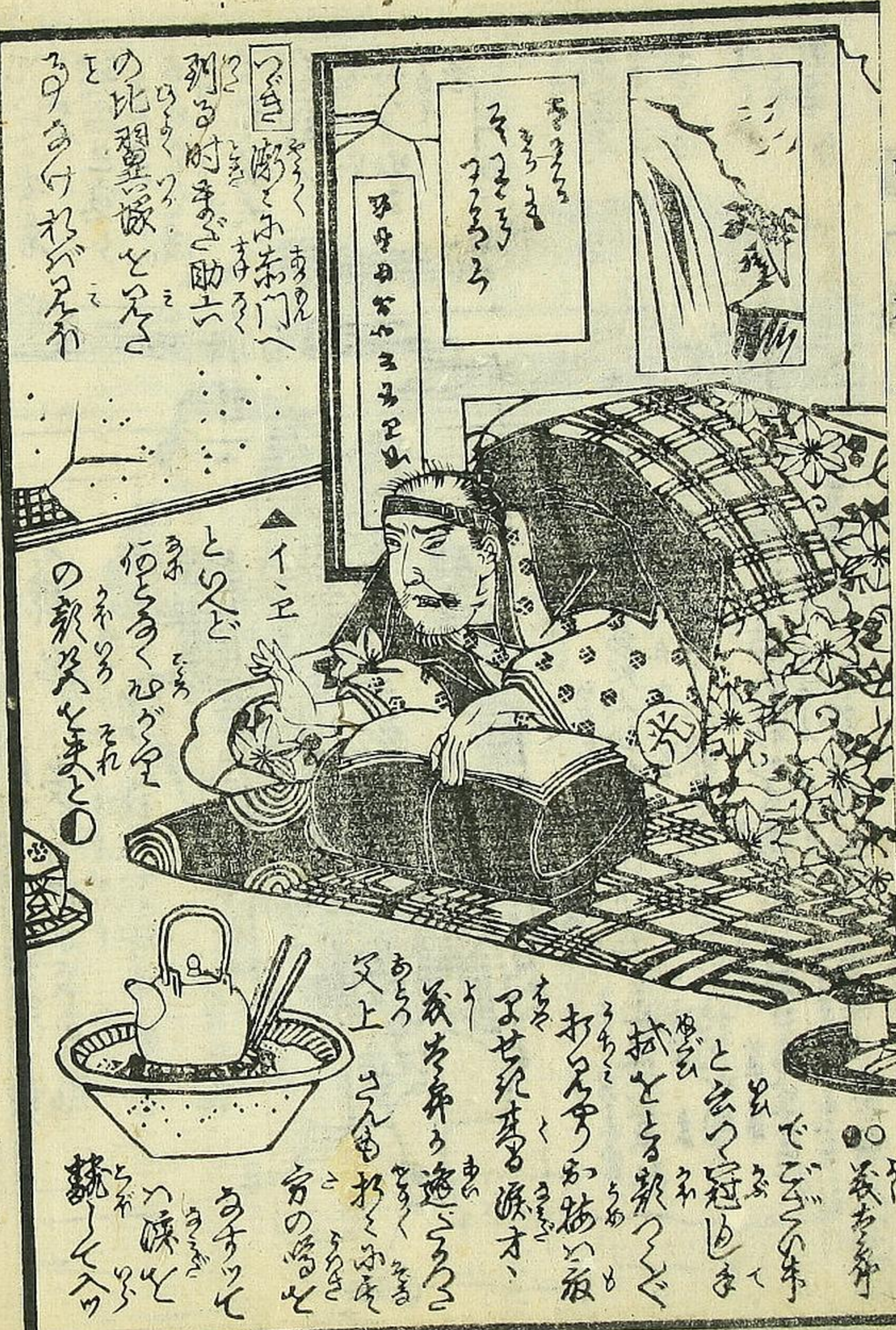
落座と病の糸へ
 長昌寺へ
 原田梅坊の
 長昌寺へ
 十七日の
 吉原

世
 金
 山
 作

元
 終
 由
 ぐ
 多
 持
 表
 上の



と
 愛
 ま
 小
 山
 吉



つぎ 漸く小糸門へ
 列する時まご助の
 の比羽無憾とて
 るゆけねば

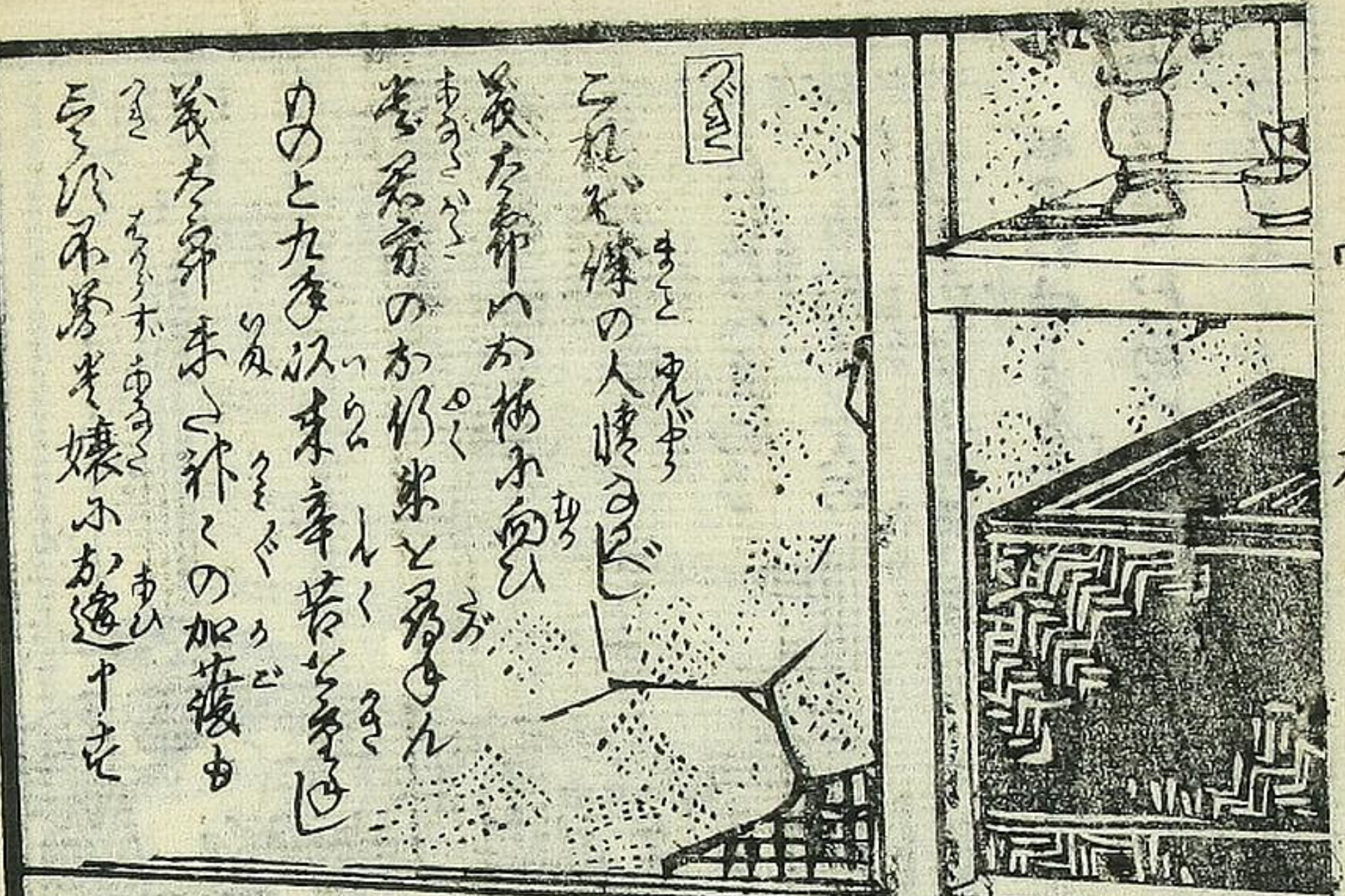
いと
 何となく心づか
 の教及てまご

ていこの朱
 とまの冠はま
 拭とる教つと
 打足すお梅の飯
 ませぬ来る源才、
 後を弄る遠らつと
 又上 さんおね
 方の為と
 ちうつて
 の涙と
 膝とへ



門と迄
 の方石碑の
 文字と情々
 折一もねより一人の
 乞食が小ぢめてを懐けりや杉井
 さぬのお嬢さぬでいれ在ませんらト
 問のねてお梅の懐き何一とまご
 ちんとせし世と悪あふのたをまご

取り
 伴の
 乞食の
 自態の私
 ぬたか強一あやゆ
 おむ由ねるのいゆ木の 人のまご
 大内様お承り米ごの あられね



これぞ憐れの人懐くは
後を帯へか梅も白ひ
老若翁のかげ米とるひん
ゆのと九季以来幸甚とる
義を身来し神への加護由
とて不為を嫌ふか逸中を

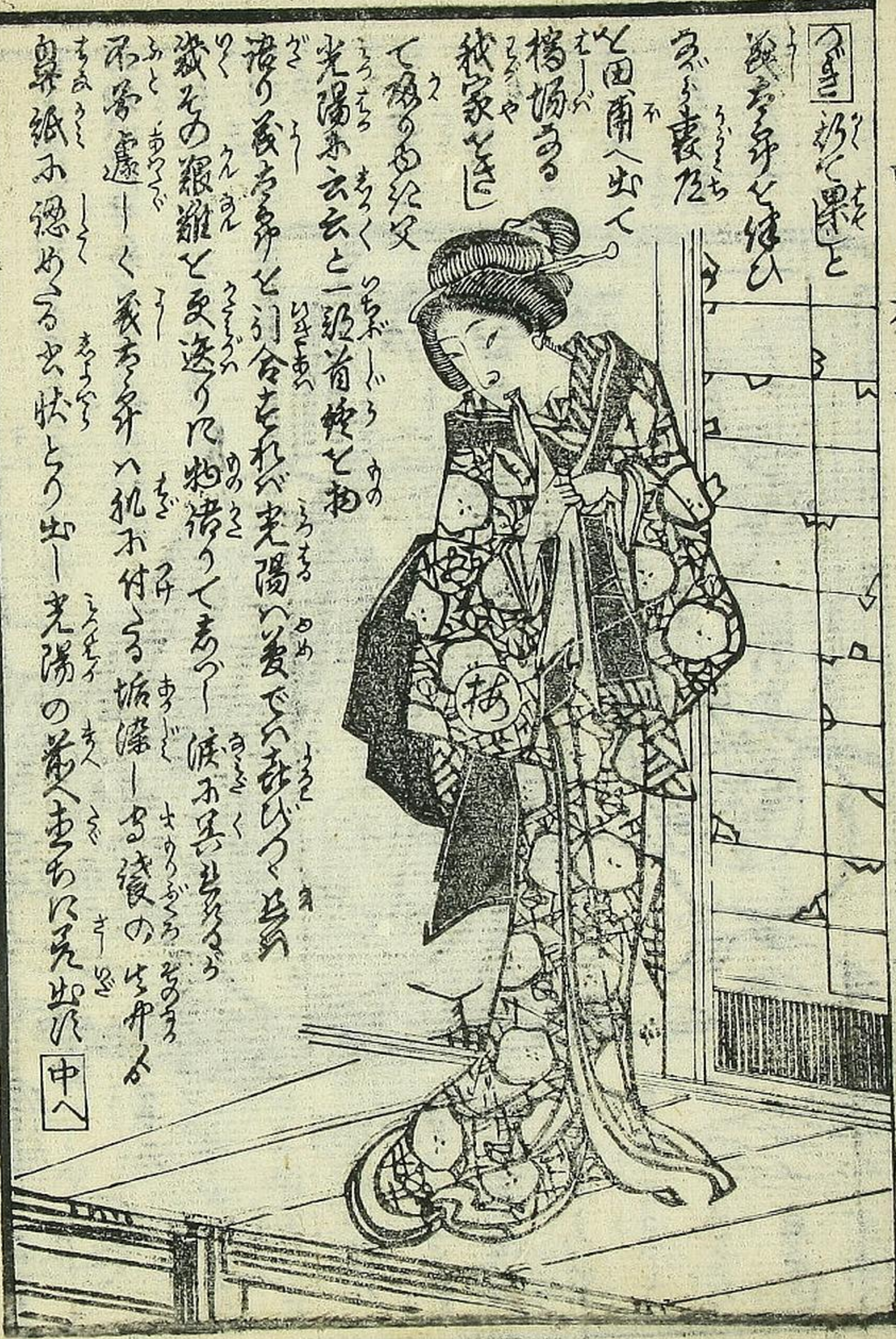


昔一のあられて 狗も張さく憂あひ
郎とのくま裏店の九尺二間お芳り
揚栗の市の徳住居店賃さへ由
降り何町店立とるる交さる



こを養ひお引立て人の芳へゆかり
おぬけおせめて老嬢のお郎
と個以来お夜もあつても
世門おと
幸ひ来て
何うお常は
お目通り
と教ひさ
おトキト
いかに
おねえお梅
へ今更お
在りー

義石
市にお嬢様
よお芳よと
おめがら
得るよ由裏
おしきお丸
の顔おらら
お梅と色
おてを
居る
か次へ



光陽赤云云と一級首飾と物
後を身とほひ
衣の裏に
と田圃へ出て
檜場
秋家と云
てあつた又
光陽赤云云と一級首飾と物
後を身とほひ
衣の裏に
と田圃へ出て
檜場
秋家と云
てあつた又
光陽赤云云と一級首飾と物
後を身とほひ
衣の裏に
と田圃へ出て
檜場
秋家と云
てあつた又

中へ

宮本二刀傳 全三冊 國定忠治實傳 全六冊

大岡天坊物語 敵討伊賀之朧月 全三冊

政談越後傳吉譚 梅加賀金沢文庫 日

明政談戀畔倉 百人町噂の白糸 日

天保水滸傳 岩見重太郎代記 日

長計龜山実記 由井正雪一代記 日

延命院實録 白井權八一代話 日

書問座 東京日本橋區松島町寄番地 松延堂 大西 伊勢屋庄之助發兌

010190514035

延 延 延

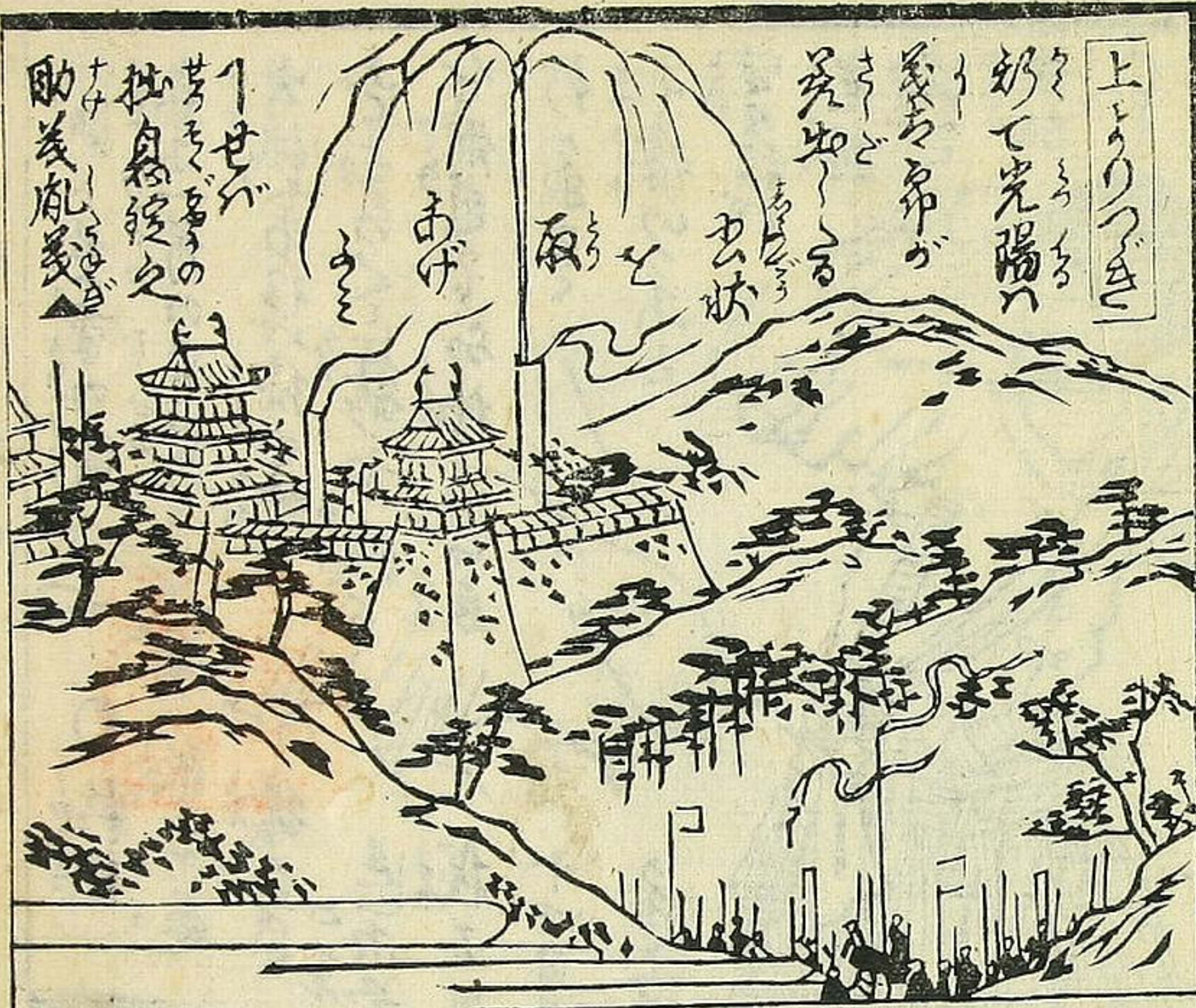
延 延 延

延 延 延

延 延 延



A536
2



上よりつゞき
 初て光陽の
 影が糸が
 美知つる
 去状
 雨と
 あり
 1せが
 拙息の
 助美風

これより下も二丁の巻の巻を
 糸が光陽へおぼりさぬ之
 孤独とね成ひて付の契約中
 上り通るゑ女お梅どのと結婚
 中世を下されゆら拙者お於
 ても大妻は是の身におこす
 取急さおぬれすて一葉去強
 中い勿く僅云
 辰九月廿日 大内家権
 杉本但物光陽殿
 君のため朽る老樹いへまひと
 君本のおやけりまへん
 次へ

女



てん

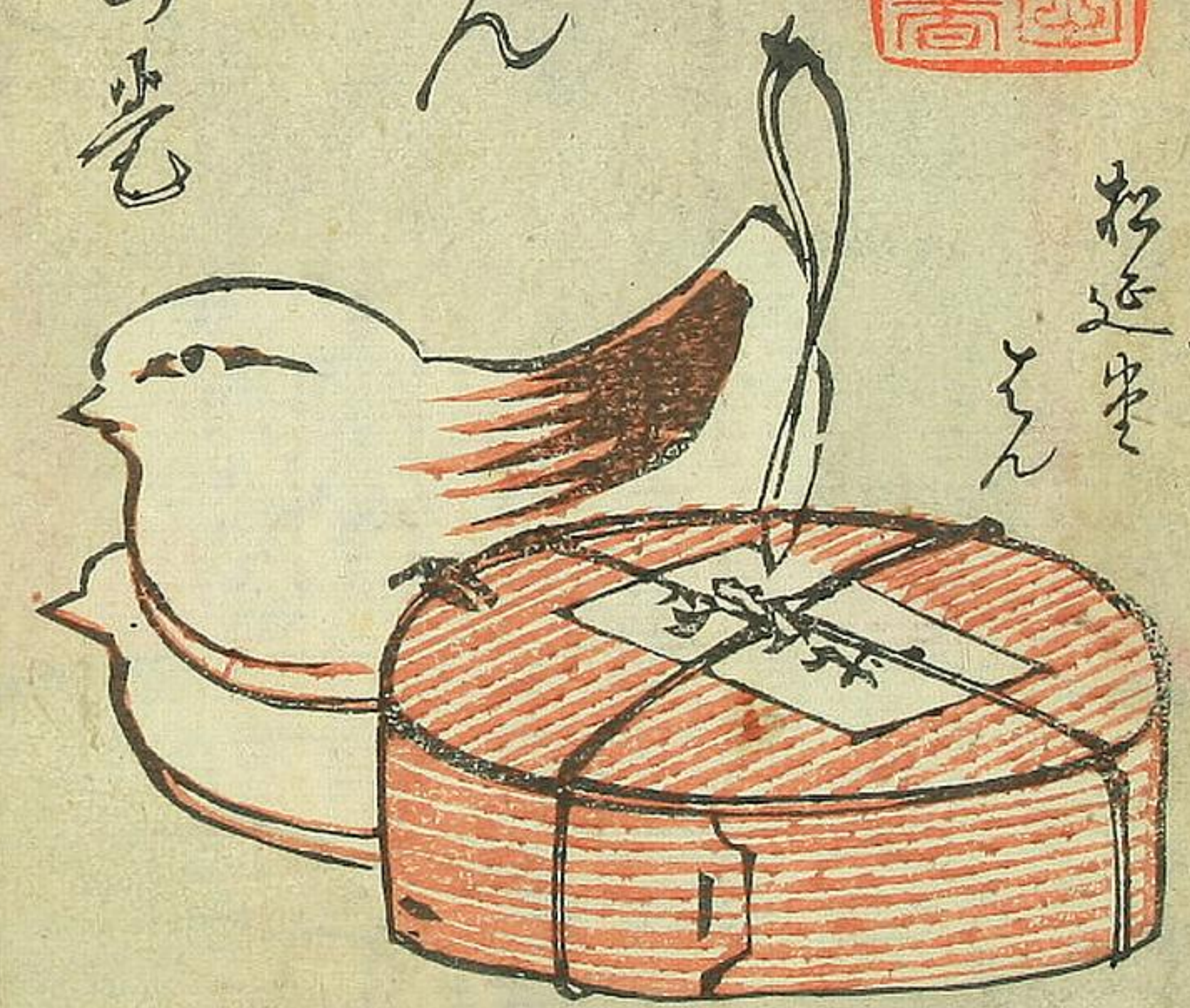
初

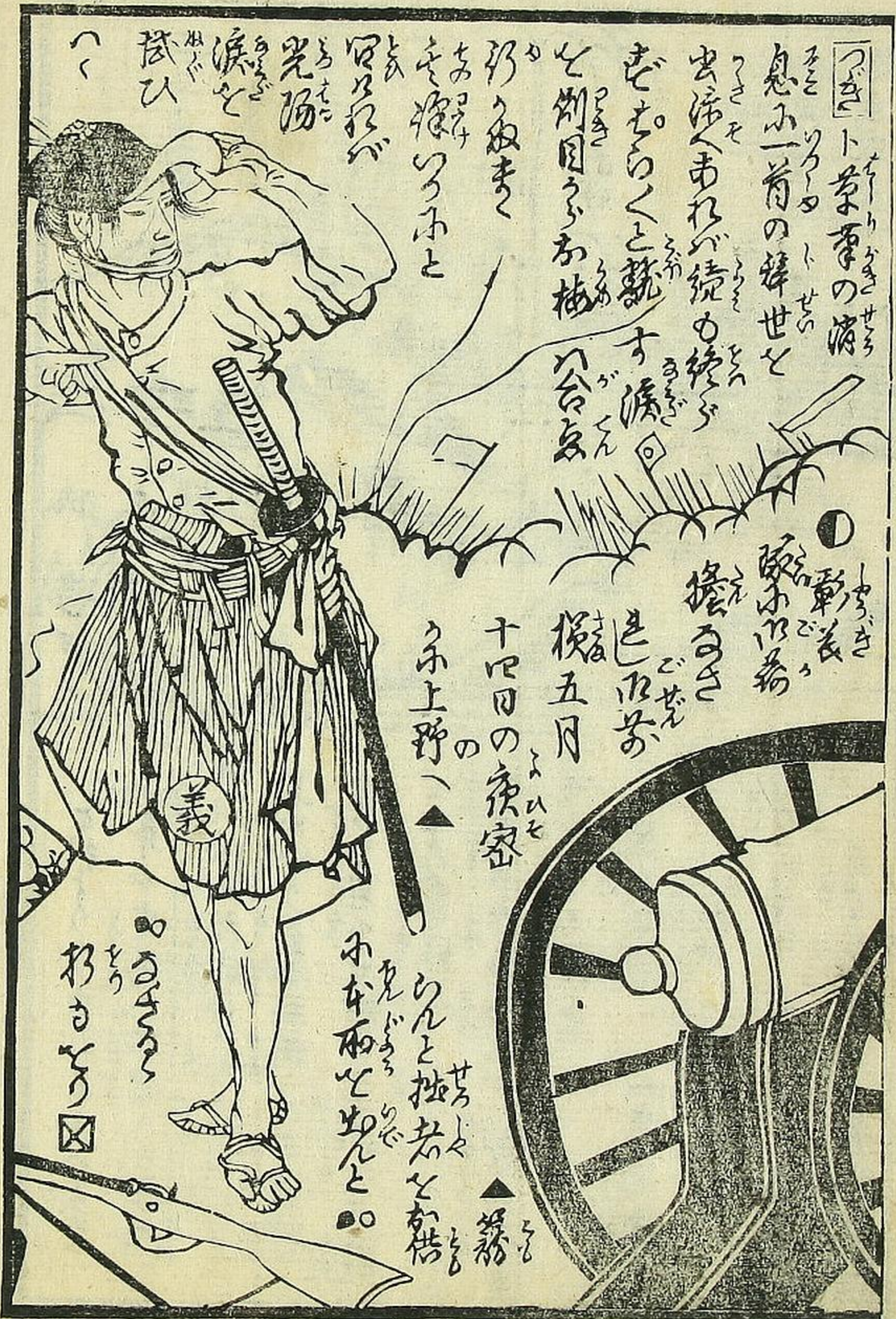
中の光

えん

おぼりさぬ

えん





つぎト孝季の滴
息小一首の輝世と
虫活くあねの鏡の終
むちのくと就す涙
七刺目ちあ梅
乃くぬまき
そ梅のつふと
光陽
涙と
拭ひ

影後
坂小の翁
掻るさ
色ぬあ
換五月

十四日の夜密
ふ上野

のんと掻おを
お本雨をぬんと

おささる



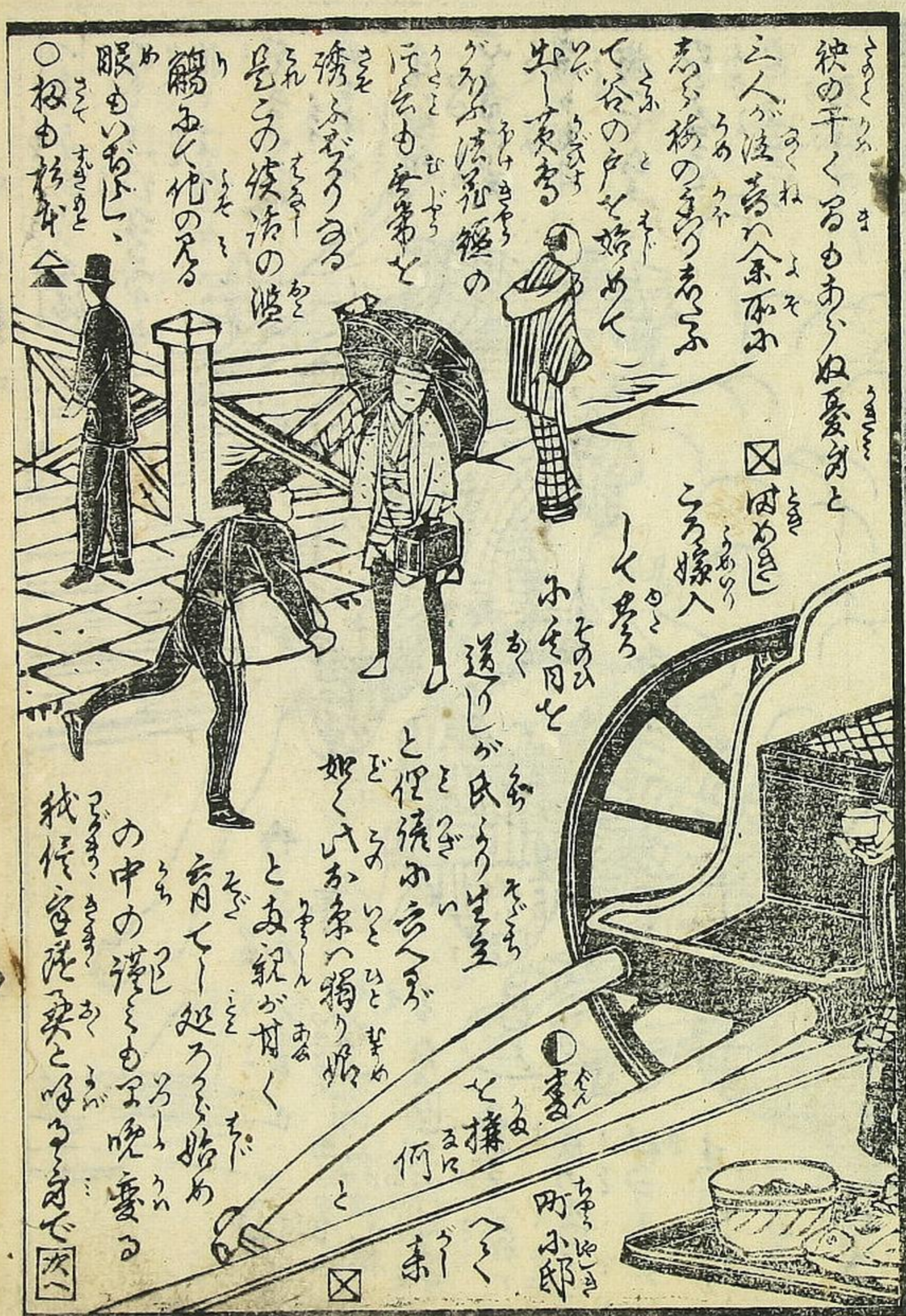
和女の不
家へむもま
来と見あ
糸如細ハ
和打取
こはあ
そ方清と
生宮元返の仔細と
信は如何あぞと問ねては方ハ
片と政め申さの涙の種あ
ある姿忘辰の幸軽切方

天祥院さま
内
あ
り
次



つぎ 髪を塚で後けて妻のお郎へ
 行着換の在家でお尋ね申す
 とお申申す文もく四返八敷列
 郎も身とありて今由
 此方のお墓へ参り
 参り候はるお嬢
 さる小かき申して
 此後り来と慰さ
 結すお清りワツと
 けりふ泣伏せか梅の
 参より光陽も止め
 兼る懇款の涙ぐみの

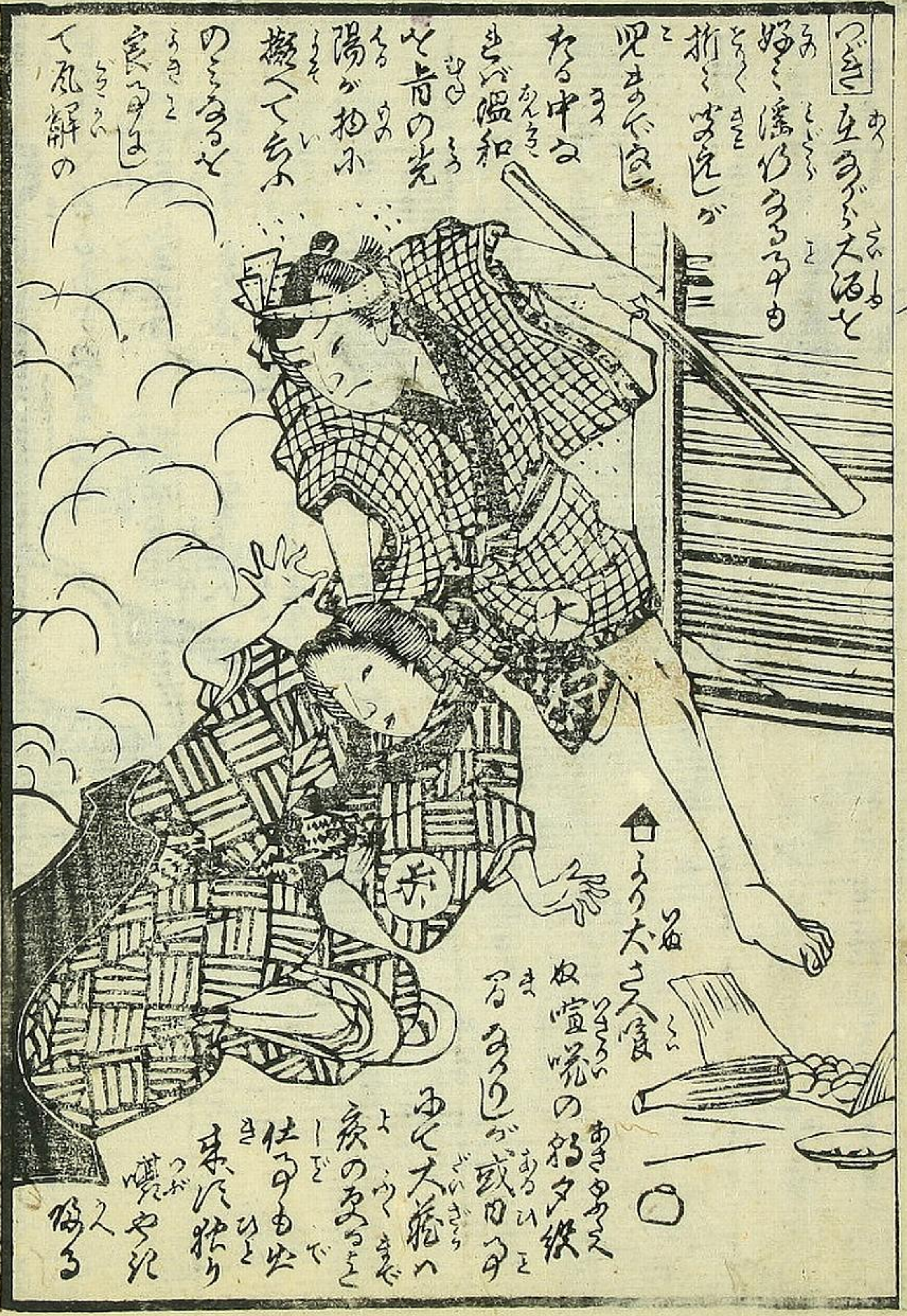
△ 兎塚の妻のお系
 へ徳川の川の家
 と尾張家
 小宮は系
 の娘あて
 系と
 系と



狭の干くもあぬ憂いと
 二人が泣きあふ余ふ
 志は梅のまのまふ
 て谷の戸を始めん
 出し度者
 かりは法花經の
 は云由を第せ
 勝ふまゝるる
 是の伎法の遊
 觸るく化のる
 眼もいぢし
 ○ ねも杉舟

△ 何れ
 小を月と
 送りか氏より生ま
 と怪儀ふふ系
 娘くか系へ獨り婚
 と女親が甘く
 育てし処ろを始め
 の中の強もよ晩憂
 我候官陸兵と噂る身で

△ 系
 何れ
 系と
 系と
 系と



つぎに左のついでと
好く流ゆるるるも
折くまはしが
児まふを
たる中
まは温和
と昔の光
陽が相小
撥てふふ
のまふと
食ふは
て丸解の

あて大花の
疾のまふと
はりもふ
東にたり
噴やれ
ゆる
あて大花の
疾のまふと
はりもふ
東にたり
噴やれ
ゆる



ごよきやと
後赫を裏へ引
紙も踏り
不勝りて紙家の
日々に疲るとまかせ
遂不酌波四のまふと
くまの同とまび
室迫世破戸
者大花と
ふかふとまふと
余はてかたの小松
業系橋辺不備家とま
か系への災はゆふ大花へ人かと輪代でかりて

幽うあもせ
日暮の
あまき
あて大花の
疾のまふと
はりもふ
東にたり
噴やれ
ゆる
あて大花の
疾のまふと
はりもふ
東にたり
噴やれ
ゆる

【三】形お知事二百五十四と

いふと慶長小貫ひつら一足

荒才出世て者神といふ車まの親

翁様とあり放櫓お踏奏消法てはやど

控送(要子の中今も)遊と十六年の控送

助と公考(親は)子と須田村の

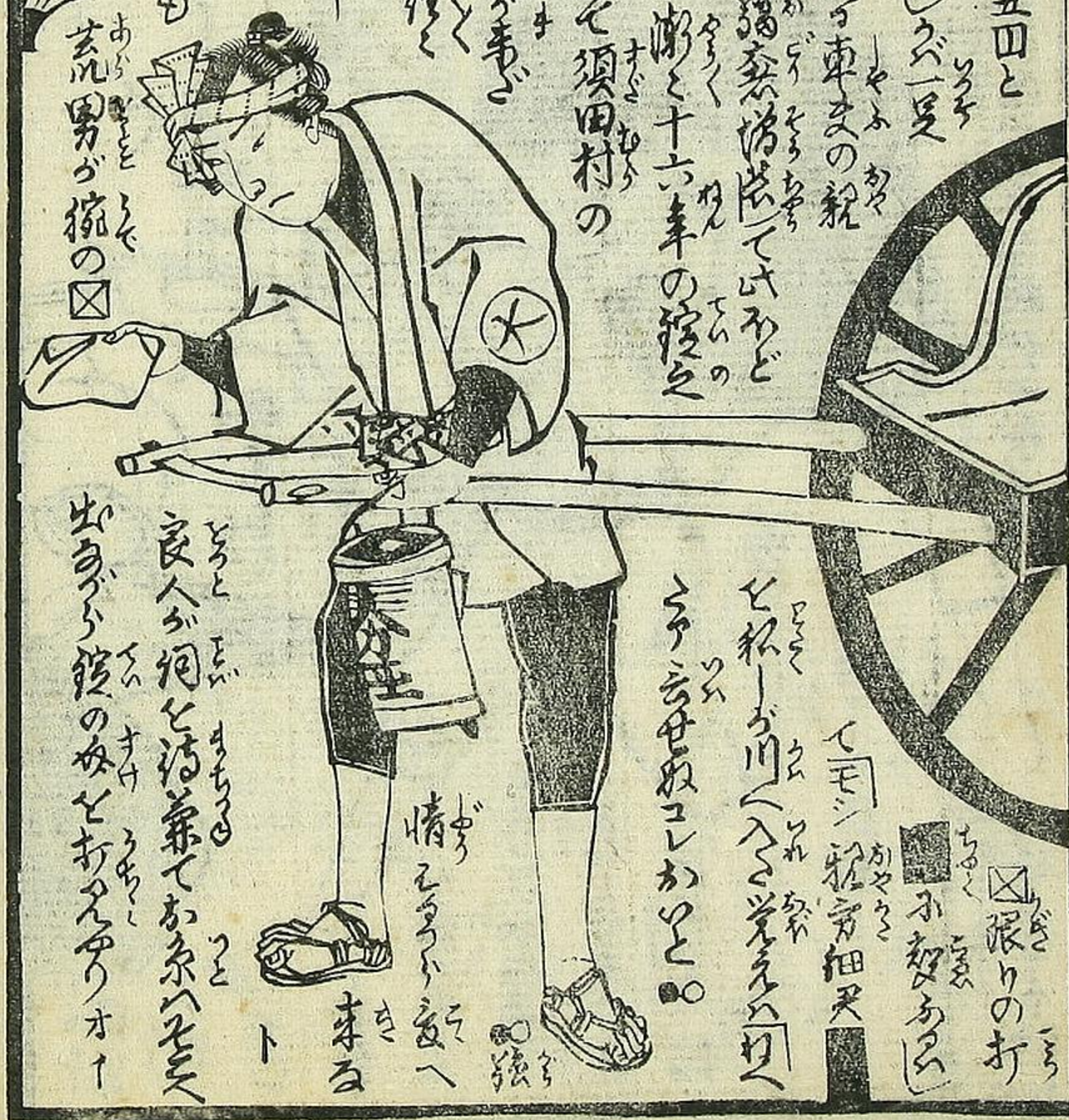
他をよよりねま(世)がま

子のあふぬとまひおせ

書子にせん

何の恨とてお

中ふこ(控)の女



浪りの打

お知事

てモシ(親)お細天

と松一が川へ入る(ま)る

と云(せ)ぬ(こ)お(と)

情(さ)ら(な)い(な)い

来(ま)る

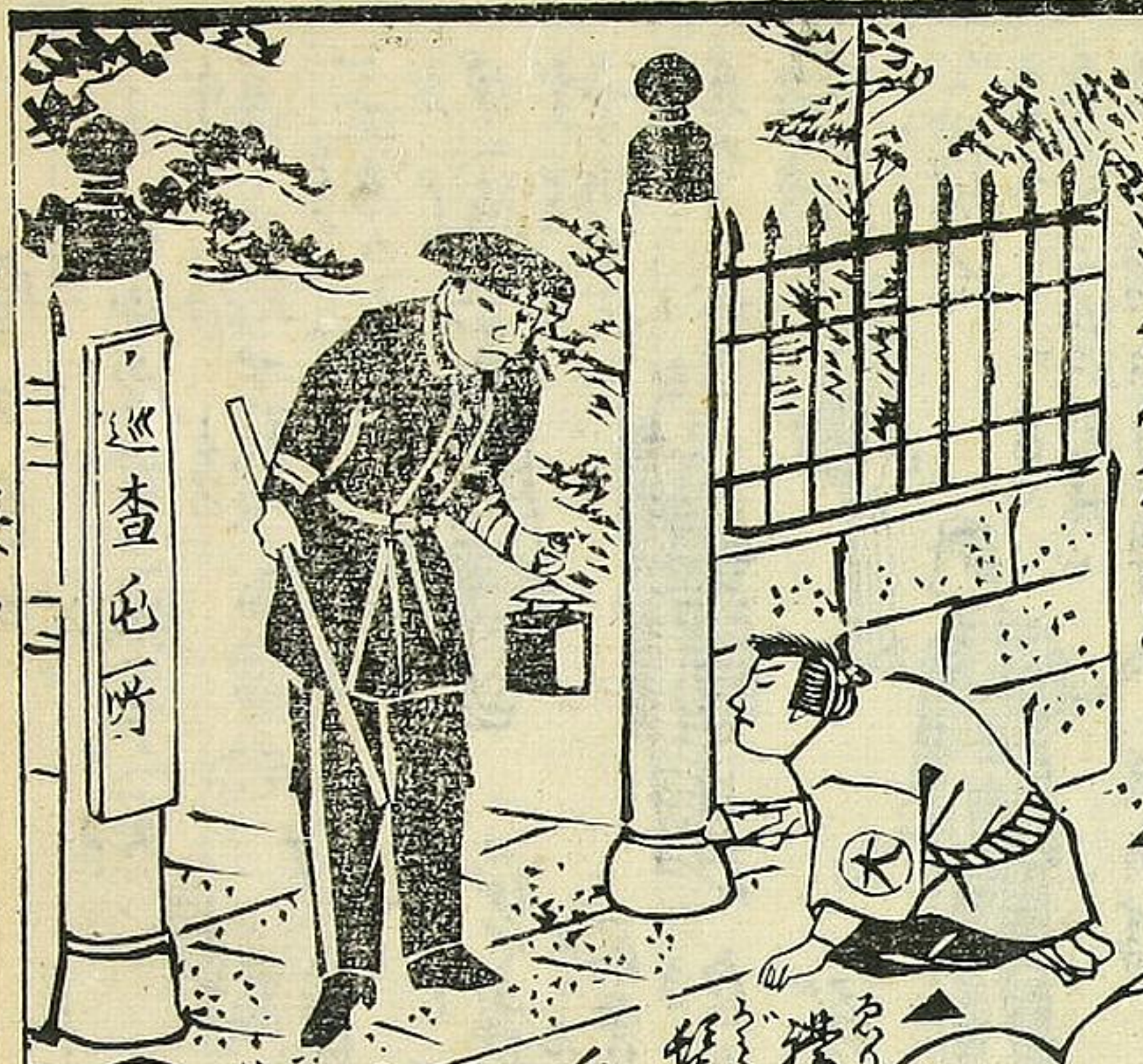
ト

良(よ)人(ひと)が(何)と(は)お(ま)へ(ま)へ

出(い)る(ま)ら(ぬ)の(女)と(打)た(る)の(オ)

のお糸と川(後)り(過)で
渡(わ)り(が)松(まつ)が(や)ね(な)る(ま)

云(い)ぬ(娘)さ(ぬ)り(ト)



後(ご)橋(はし)結(む)す(は)ま(ら)一(い)つ(日)の(晩)須(す)田(だ)村(むら)お(お)か(と)

連(れ)て(乃)ち(も)親(おや)足(あし)舟(ふね)お(お)ね(と)と(ま)と(お)ま(の)

向(む)か(可)哀(あは)さ(ま)う(と)お(ま)ら(は)は(ま)お(お)依(よ)

ら(若)子(わかし)は(て)お(ま)足(あし)さ(ら)う(ら)う(け)掛(か)

懐(なつか)し(き)と(親)方(おや)が(急)い(い)か(ら)お(ま)

の(お)何(なに)か(信)じ(ま)し(ら)ぬ(と)お(ま)お(お)孫(まご)お(お)孫(まご)

先(ま)に(お)母(はは)の(末)と(表)へ(お)ま(の)お(ま)

お(ま)止(と)ま(り)ば(概)畧(りやく)事(こと)を(お)ま(の)お(ま)

貸(か)し(挑)灯(てい)お(お)及(およ)び(て)お(ま)怖(おそ)ろ(ろ)お(ま)

お(ま)今(いま)お(ま)古(ふる)の(お)ま(の)お(ま)お(ま)と(お)ま(の)お(ま)

お(ま)挑(てい)灯(てい)目(め)を(お)ま(の)お(ま)お(ま)お(ま)お(ま)

お(ま)つ(と)お(ま)お(ま)お(ま)お(ま)お(ま)お(ま)お(ま)

次(つぎ)

つぎにむねおりの村に提の下(実) 落して逃らぬ奴 かのあつとぬく 提(運) 上り折る 来るる士 旗小灯 借りて 東西とて是乃端が 持之紙入の中太鼓で 又と物も合ふものには 又と生能道を揺るとこは

一人の選挙ハ各個人対し 今も分が電予ののめが

さく入る選挙ハハ 旗はは乃雨用 又二途ハ

さく又先陽 又二途ハ 小内後旗



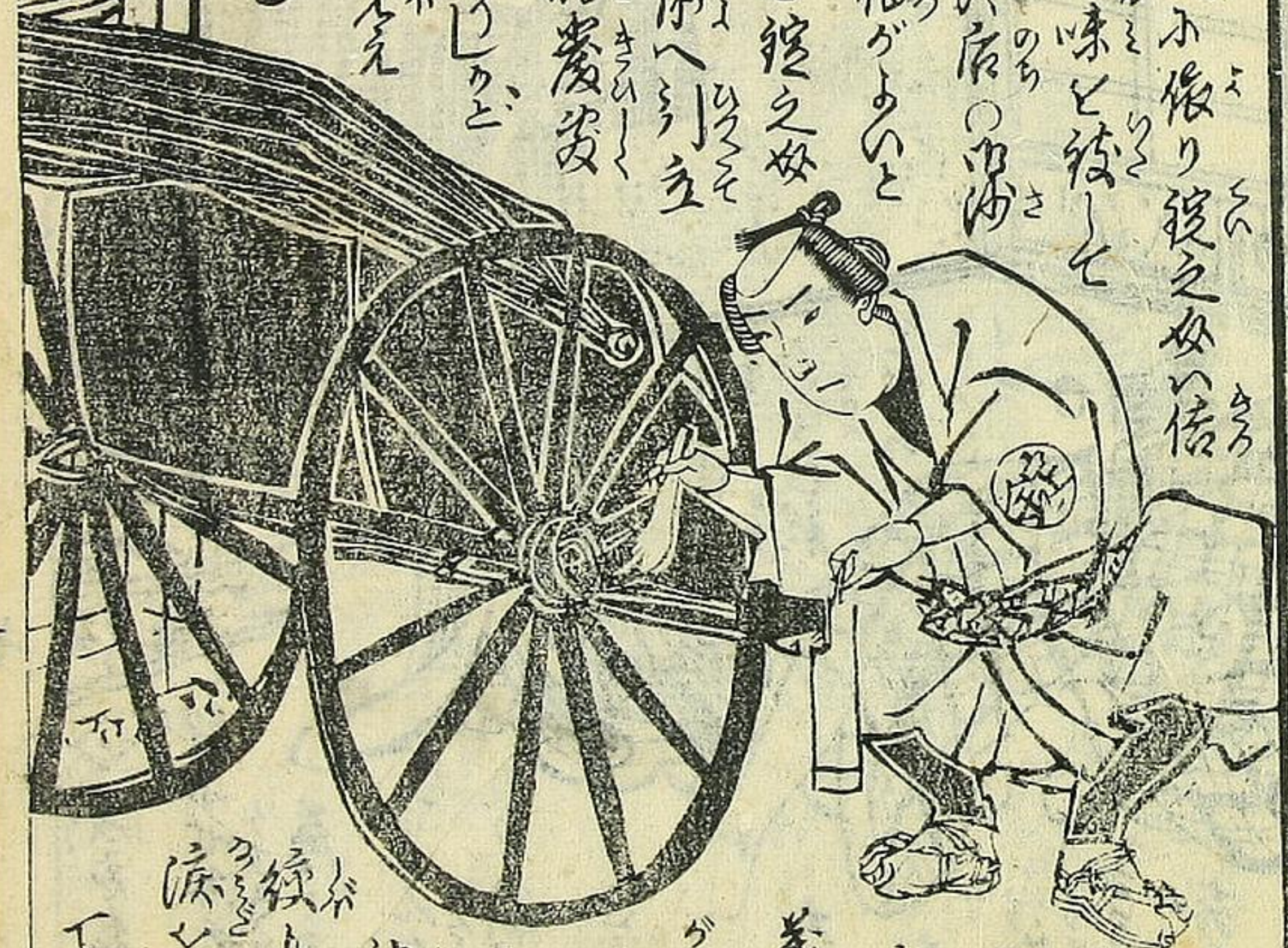
述子礼蕃臣大内後旗 併へ小依り鏡之女(信) 併同寝とぬ後胤と 此のく勝と生裏小 安政と名辰の第四 月廿二日述べと記 であるを物りイヤサ 喫撃たる経歴の 作たるのよう家だ 素志の正いさ

併へ小依り鏡之女(信) 此のく勝と生裏小 安政と名辰の第四 月廿二日述べと記 であるを物りイヤサ 喫撃たる経歴の 作たるのよう家だ 素志の正いさ

併へ小依り鏡之女(信) 此のく勝と生裏小 安政と名辰の第四 月廿二日述べと記 であるを物りイヤサ 喫撃たる経歴の 作たるのよう家だ 素志の正いさ

併へ小依り鏡之女(信) 此のく勝と生裏小 安政と名辰の第四 月廿二日述べと記 であるを物りイヤサ 喫撃たる経歴の 作たるのよう家だ 素志の正いさ

人力車 出車沢山

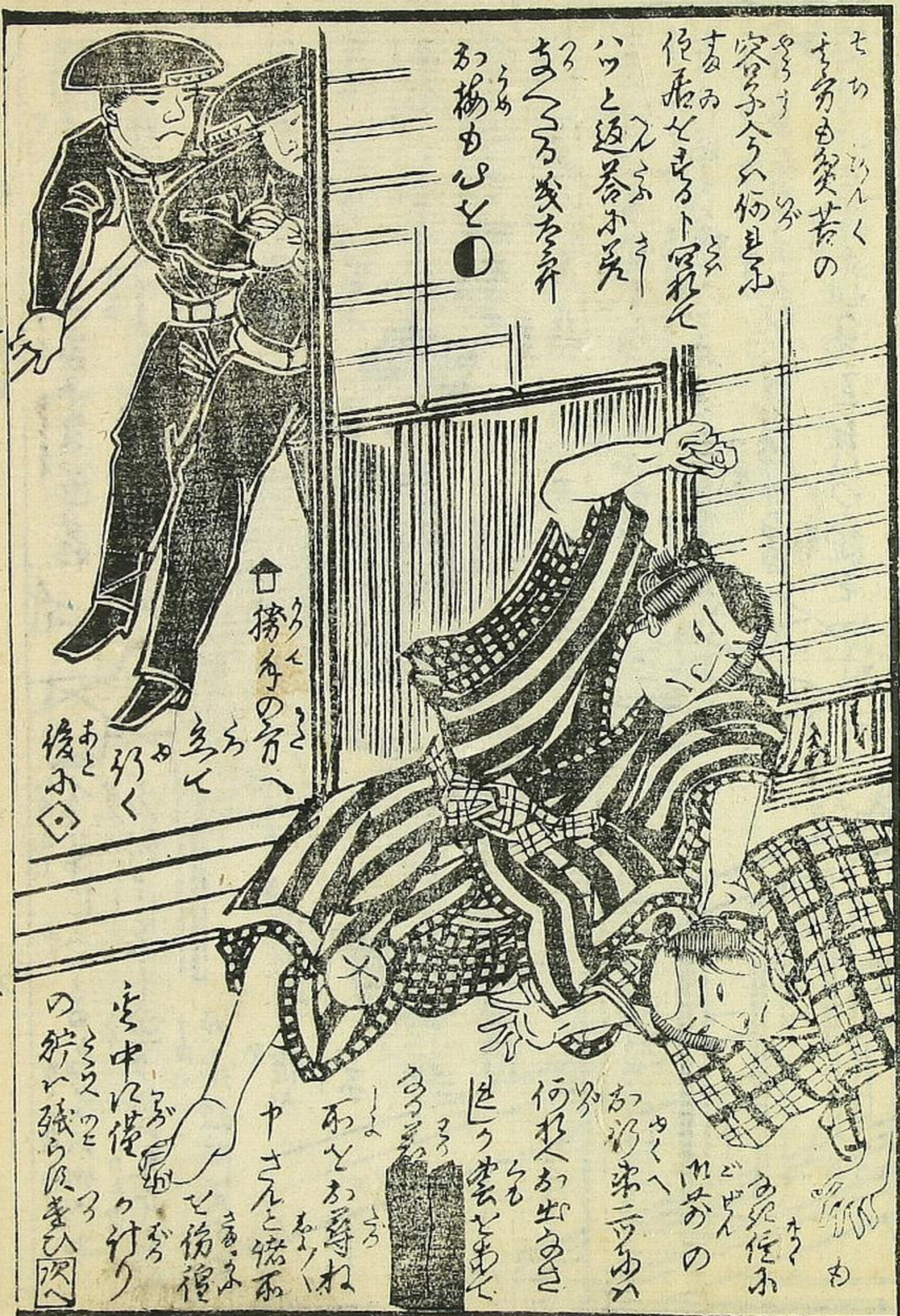


小川 義左衛門 決と 次へ



お梅も佐七も
静屋も
由家も
破り捨て
お梅も佐七も
お梅も佐七も

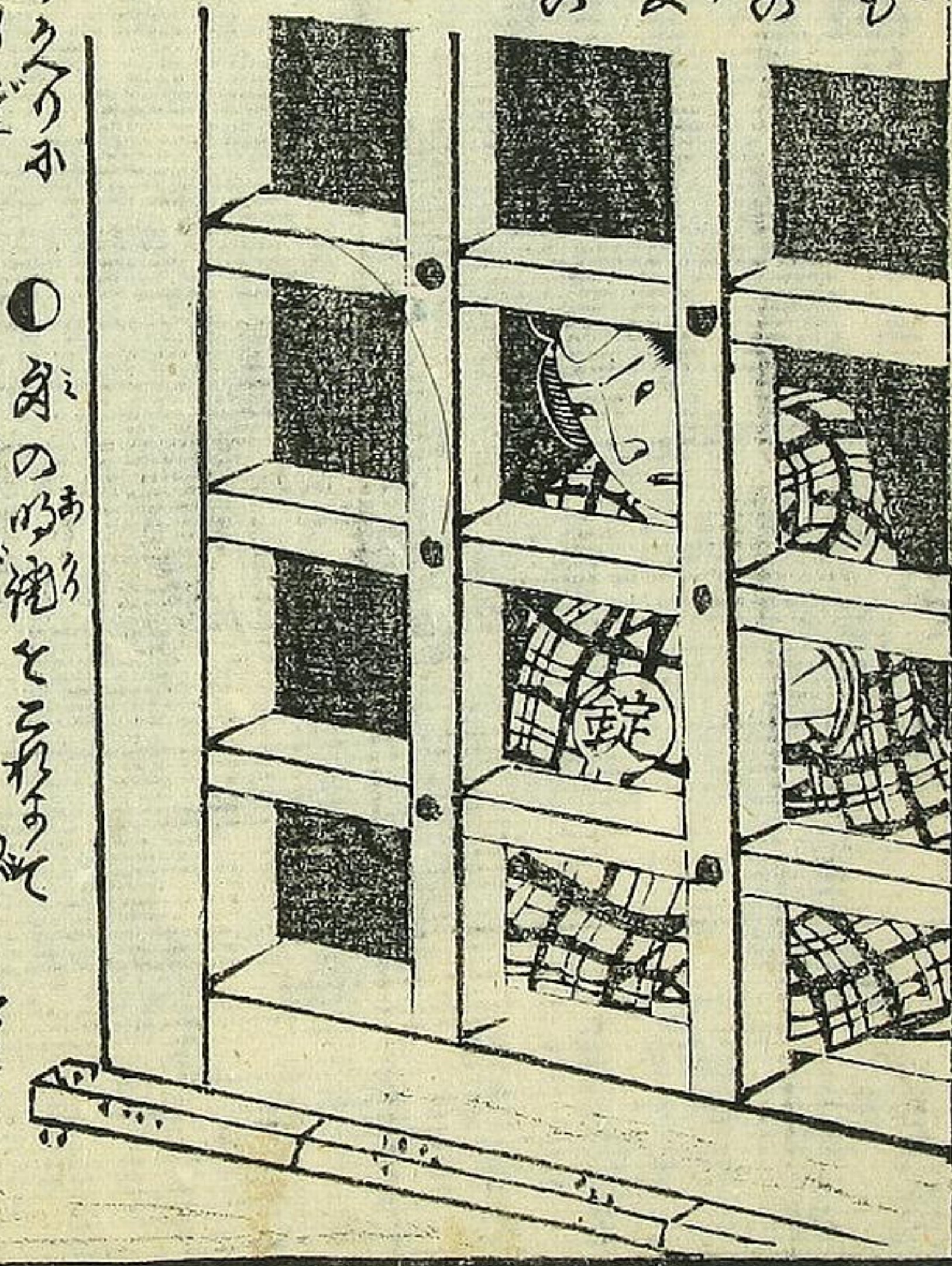
大内の
お梅も佐七も
お梅も佐七も
お梅も佐七も
お梅も佐七も
お梅も佐七も



お梅も佐七も
お梅も佐七も
お梅も佐七も

お梅も佐七も
お梅も佐七も
お梅も佐七も
お梅も佐七も
お梅も佐七も

つぎ 好む小連なりけきともの
 育てきし人ふねん七車登の
 奥ふとるひつは六月ご個ま
 輝を懐けぬを暮るにせんあ
 れはと居てきもつて大内の
 家名を繕んときとより
 おふんのあり未放徳と
 久る路吾妻徳と
 又新着とけつさ又一下職業と
 大なるを候ぬか宅へ候きあ
 びけきの跡の雅歌何ぞ糸一の



家のゆゆせとこれあり
 おま下さのありと述べば友更心
 実あるとあらふと目下足踏く下け
 大なる夫婦と候ぬか敷用由海と宮れり

宮本 一刀傳 全三冊 國定忠治実傳 全六冊

大岡 天和坊物語 日 敵討 伊賀之衆 月 全三冊

大岡 越後傳吉譚 日 梅加賀金次實傳 日

明政 誠意神倉 日 百人町傳の白糸 日

天保 水戸新傳 日 若見重太郎代記 日

敵討 龜山実記 日 由井正雪 日

延命 附實錄 日 白井権八代記 日

書場 問屋 東京日本橋区松島町寄番地 大西 伊勢屋 庄之助 發

010190514043

延 延 延

延 延 延

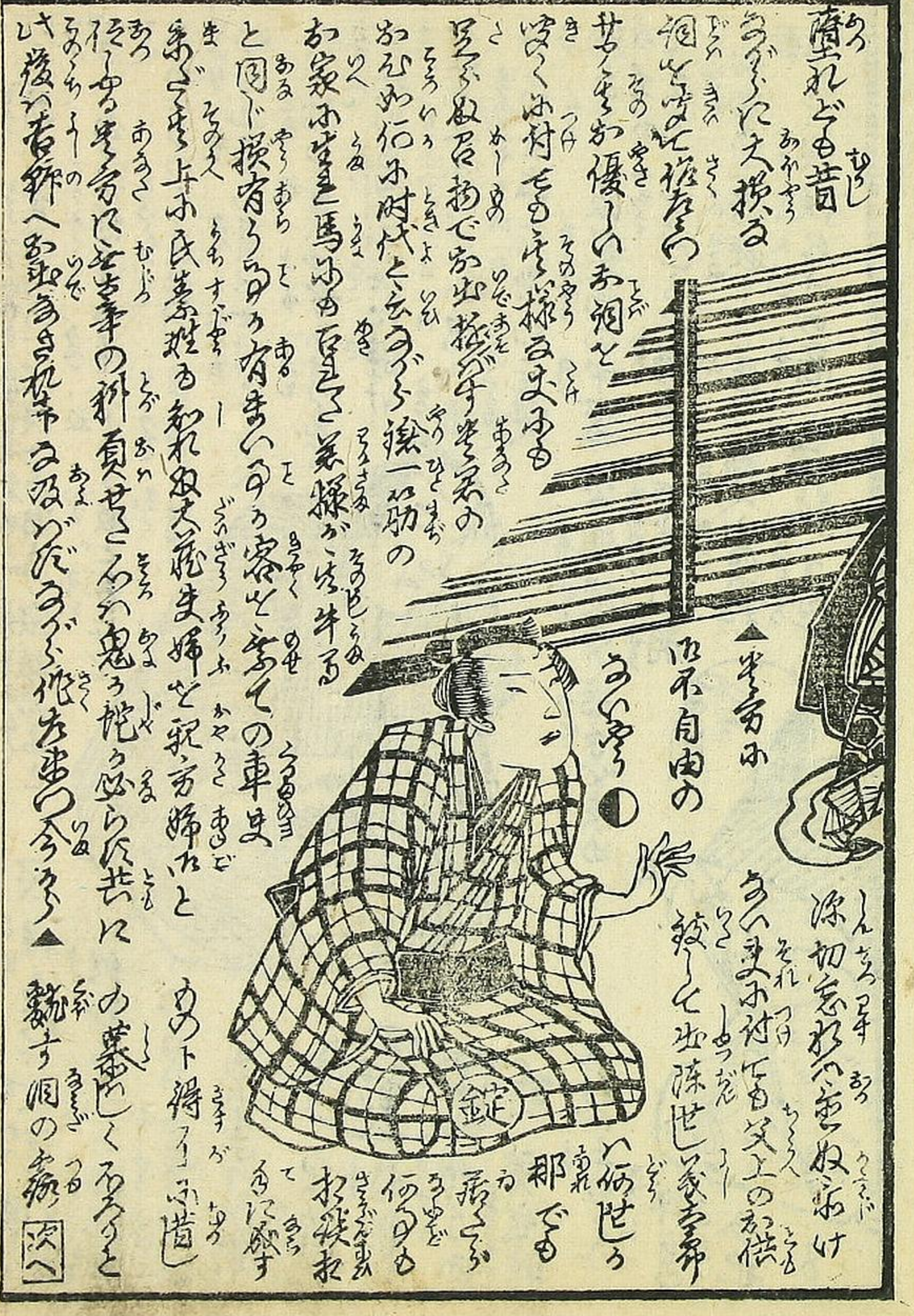
延 延 延





腹はさかしく
 慰めて仔細
 いたる酒樽
 さいん何し
 久し味不れと迷失ていか
 付らんどうまも是も今と
 成らんや冷やの標を放
 ぶつ久し
 知らせ不味さる不吉
 の藤モウ大
 体不味さるへト
 積しは兼不

世をば
 未さ
 上つ款
 水自をまき
 出散はるを
 噂し大内候の
 又きか時相もるじ
 が指あつて形容せ改
 今不味めぬ和老の



腹れども昔
 かねた大換
 相にせは極
 甘きお優しのお酒
 賢くお付てもは極
 豆もぬ君おでか出極
 おむぬはお付と云う
 お家おまは馬油
 と同ト換有る
 余はさかしく
 後の中寄
 以後の香餅へお

世不自由の
 深切念はらぬ
 又か時相もるじ
 が指あつて形容せ改
 今不味めぬ和老の

折るる空の二羽の片の波はるる夕日の子寂滅の床と
 著くさ弘福寺の持のるる夜と表れと
 源ふるる〇生後幾つる星月を送り
 好治九年の夏水月をうく
 たる院のるる〇四方小のるる
 三伏の暑さをみこに避け
 つとまらトとるる〇
 集小玉子の里小名とるる
 き二羽登海老の二横
 孰と考らぬ怒雷の中はる
 目と大一柱はるる〇
 二羽登の二階はるる〇
 流はるる横渡名代の高



〇廻鏡を浴を求め
 亞東一の南
 鏡へ磨かれ
 たわがせいで

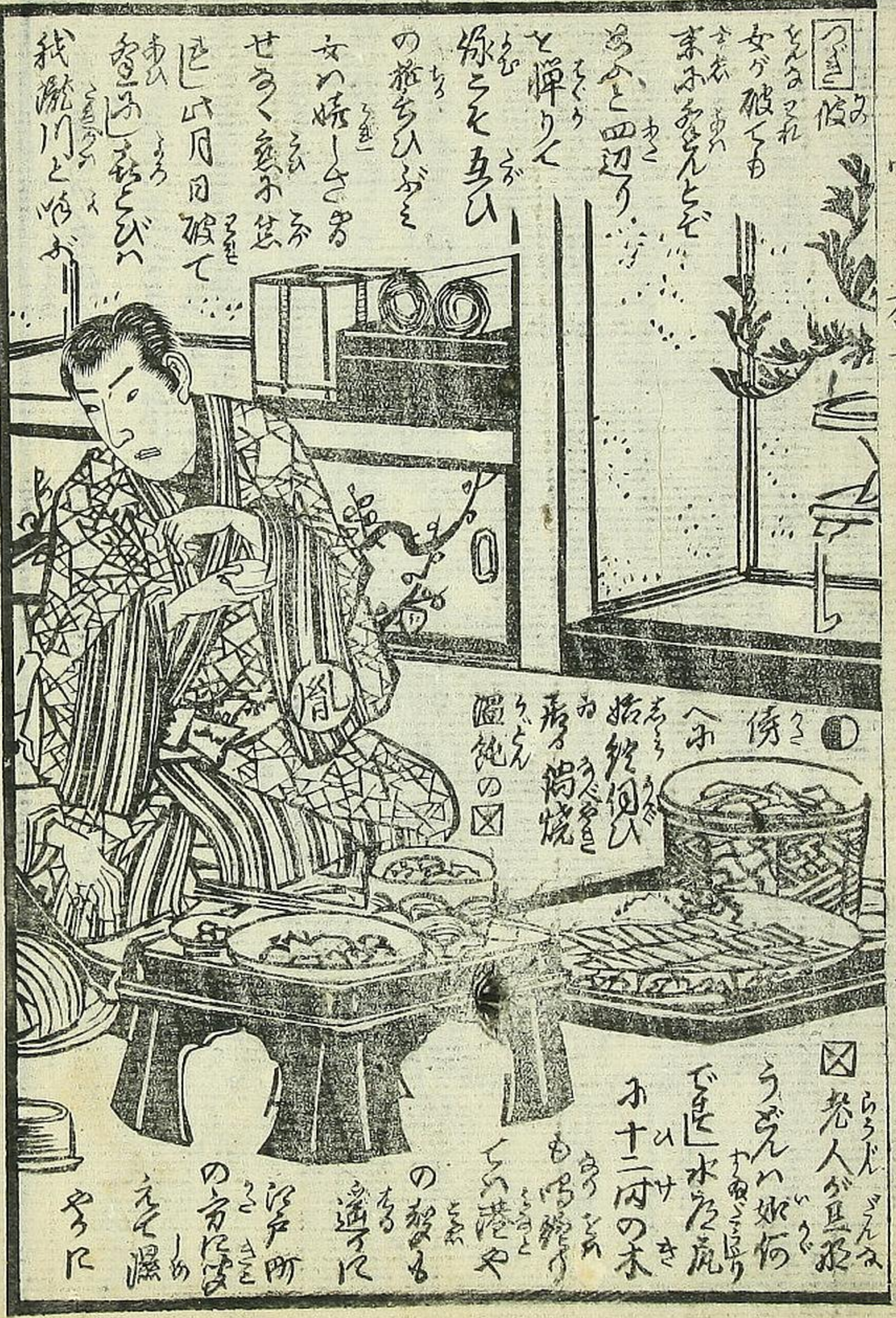


〇輝るる〇数玉の
 傾むる玉の酒杯底
 のるる〇生後幾つる星月を送り
 小あるる〇
 乃小萌を
 情慾を
 持了る
 賢人の性
 〇止めく
 洋の
 今抱

鏡の洋をが今日の
 参合あり殊小里米
 一の連中へ日は好る
 教家若
 あて中に
 多さるる
 龍の控
 のすの
 之助の
 実名ふ
 比被の
 佐左衛
 門が全



〇輝るる〇数玉の
 傾むる玉の酒杯底
 のるる〇生後幾つる星月を送り
 小あるる〇
 乃小萌を
 情慾を
 持了る
 賢人の性
 〇止めく
 洋の
 今抱



つぎは
 女が破ても
 茶ふおんを
 女のと四辺り
 と睥りて
 縁を互ひ
 の花をひが
 女の婿とさ
 せろくゑお
 色は月日破て
 香ふ花とひ
 我流川とゆか

○ 傍
 始終何ひ
 形 獨焼
 置純の

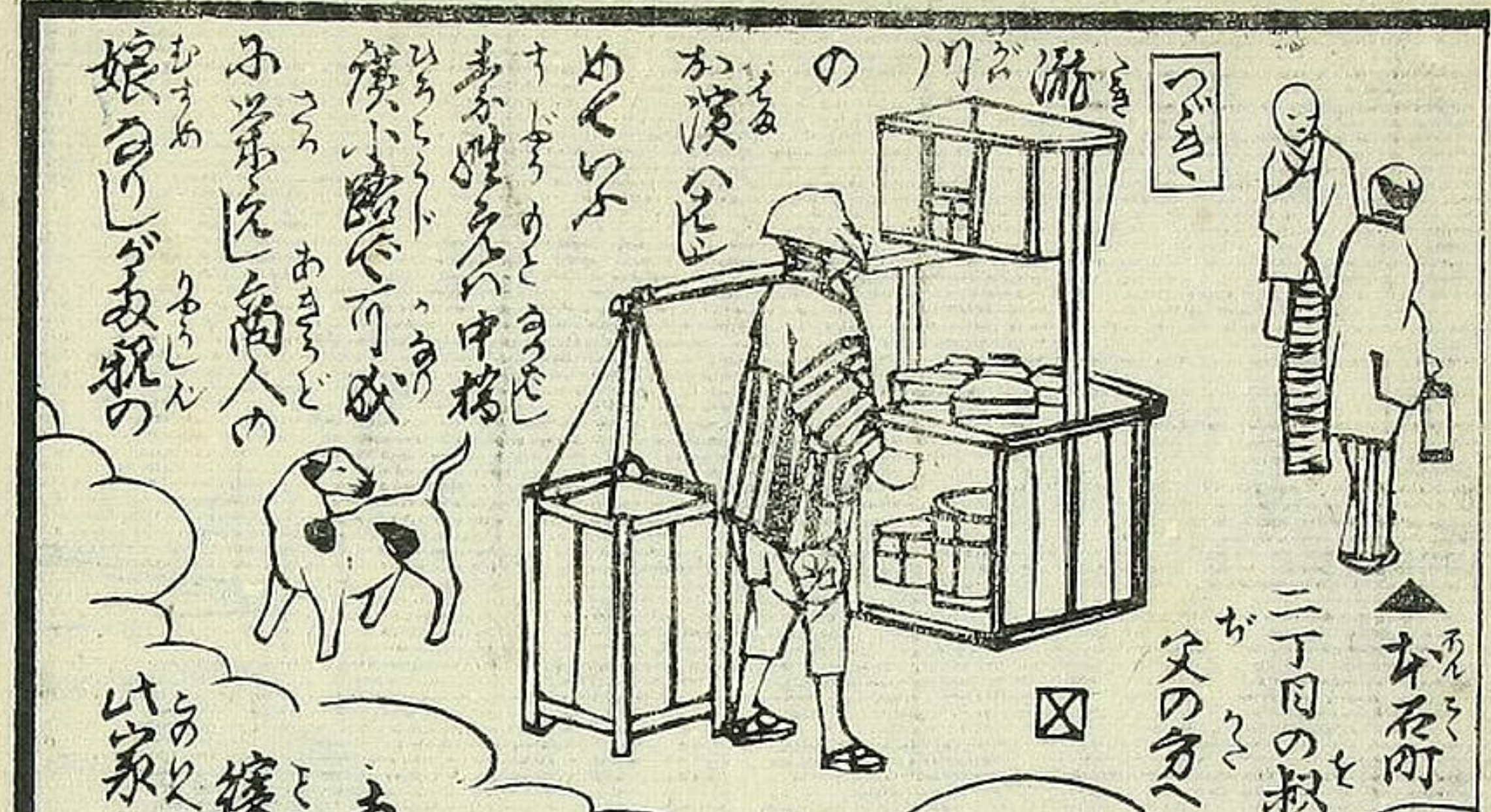
□ 老人が豆
 うまの如何
 正水た鹿
 お十二河の木
 の彼も
 遠くは
 江戸所
 の方に
 えて濕
 やり



ま
 名多の身と棄
 川林に今
 骨けら流む涙の
 あると惟る白雲の林の
 此際の手持るうアウ難有やと
 なるもあを妓まきより且取
 如何と進める何れは先と後
 亂が緊迫む火のか演か許深
 ひと知りするが捨子小め首
 妻ふんがサア由世とあどろ
 又トえ返る
 足えあつます

▲ 獨焼うぶんの
 灯り不透一ちあ
 拾一品の位大内家亂
 が男と横ふめづりあ
 証のふの迷子れ焼
 莞尔と打笑む素足

多美膚が倍
 日影のまを
 不引橋へ



二丁目の叔父の方へ
 父の方へ
 引取らるるまで入居るもの、貸すにありと
 是れもさう運の事、おまけに踊りの帳をびて
 振も悪く、おまけに盛りの不承、おまけに
 横妻の公、困妻と世法、おまけに人の
 わりとも、おまけに、おまけに、おまけに、
 不承、おまけに、おまけに、おまけに、
 慕い、おまけに、おまけに、おまけに、
 兼て、おまけに、おまけに、おまけに、
 おまけに、おまけに、おまけに、おまけに、
 棒を、おまけに、おまけに、おまけに、
 け家へ、おまけに、おまけに、おまけに、

世と、おまけに、おまけに、おまけに、
 後、おまけに、おまけに、おまけに、
 勤、おまけに、おまけに、おまけに、
 身、おまけに、おまけに、おまけに、
 く、おまけに、おまけに、おまけに、
 へ、おまけに、おまけに、おまけに、
 多、おまけに、おまけに、おまけに、
 兄、おまけに、おまけに、おまけに、
 知、おまけに、おまけに、おまけに、
 幼、おまけに、おまけに、おまけに、
 次、おまけに、おまけに、おまけに、



雪の梅
 何と、おまけに、おまけに、おまけに、
 何と、おまけに、おまけに、おまけに、
 何と、おまけに、おまけに、おまけに、

鷲齋綴 國政画

物借りてはも修りて
 其儀が思相變て出出と
 お梅の止め取又さ今今
 何人お出ある。今知れ
 可き盜賊の住近多々
 云ふと取返さる。今更に
 返不違由先は社者いふ
 若何いふ事捕まり
 事をもさる事か○

あり耐の後海を及ぶ
 主難くマア侍小取
 幼き阿の遊子れ何
 かと例くお梅い
 身一ツを扱ひて
 収業とトおふか
 合さど互いの存
 と吐息をつく
 秋ののどめ
 廿二編引つぎ
 御明治十四年 本三林町三丁目番地 松島町一番地
 編輯人 福城駒太郎 出版人 大西庄之助

宮本一刀傳 全三州國定忠治實傳 全六冊

大國天一坊物語 日 敵討伊賀之羽月 全二冊

大國越後傳吉譚 日 梅加賀金次文庫 日

明政談總辨倉 日 百人町噂の白景 日

天保水滸傳 日 岩見重太郎代記 日

敵討龜山史記 日 由井正雪一代語 日

延命院實録 日 白井權八一代話 日

三教問屋 東京日本橋區松島町寺番地
 松延堂 大西 伊勢屋 庄之助 發兌

010190514051

井古

延

延

延

延

延

延

延

延

延